



ホストファミリーとのパーティー

吉田茂 国際交流基金 第9回 八百津町中学生海外派遣事業

中学生海外派遣研修を振り返って

～21世紀の国際人に育てほしい～ 団長 教育長 有賀昌司

「わー涼しい！」

夏休み中なのに、訪れた‘ガーフィールド高校’の全ての施設（もちろん体育館から廊下まで）はエアコンが入っていた。

「日本では節電なのにアメリカは人がいなくても冷房が入っているってすごい。」偶然いあわせた日本でALTをしていた女性に聞くと（日本語で話せました）、「研究や勉強に集中したいから、良い環境が必要なのよ。」と答えてくれた。これが文化の違いなのか、経済力の差？なのか。生徒は多くを感じただろう。

1 始まりは「アメリカを学ぶ」

今年で9回目となった派遣研修は、4月の選考会から始まり、20名の生徒（女子17名男子3名、八百津中学校15名、八百津東部中学校5名）が決まりました。8月に入り生徒は事前の研修を受けました。今年、かつてアメリカに在住していた葛生氏（福地在住でハーバード大で学ぶ）によるアメリカ学講座で、アメリカへの興味を深めたことだろう。さらに副団長の今井校長から歴史を学んだ。そしてバレリー（ALT）とメイトル（イスラエル交流員）による日常の会話研修を4日間行い、心の準備を整えました。

2 今年からホームステイを前半に

前回まではアメリカに慣れようと観光をさきに行っていたが、時差ぼけ等で観光が不十分になるとのことで今回は観光を後にする計画にし、到着直後からのホームステイ方式に変えました。8月17日午後4時過ぎ、空港からバスでホストファミリーの待つ‘SLEEP INN’に到着。手に風船を持ちwelcomeと書いた手作り看板を振りかざし笑顔一杯で出迎えてくれるファミリー。子

どもたちの緊張と安心の表情がこの地に張り詰めた。一人ひとりの生徒とハグや握手、ホストのこぼれる笑顔、次々と車に乗りこみました。ファミリーの方にはまだおなかに赤ちゃんがいる方、養女を養っている方、老夫婦（若くみえる）、若い方から中堅層まで、もちろん人種も様々な方がいて、まさに異国に来た感じであった。そうこうするうちに、あっという間に生徒がいなくなり引率の私も不安がよぎった。次の朝、多くのファミリーと生徒の笑顔を見て、ほっとしたことは言うまでもありません。

3 ファミリーと共に活動

8月18日よりワシントンの名所見学だ。ホームステイのリーダーであるシンプソンさん（女性）が多くのファミリーを集めワシントンの有名な施設見学を計画していただいた。まずはアメリカの象



教会

徴ワシントン記念塔、そしてリンカーンメモリアル、さらにスミソニアン博物館と、初日から盛りだくさんだ。米国では常に厳しいセキュリティーのチ